

## 三鷹市立高山小学校 令和5年度【 図画工作 】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○作品のイメージがもてるように、見本を掲示したのが良かった。</p> <p>○お花紙、色画用紙、折り紙など様々な質感の紙を使った作品を作ること、材料のよさを感じながら、個々の工夫が見られた。</p> <p>○絵の具の時間には、画用紙、パケツ、パレットを置く場所などを繰り返し学習することにより、少しずつ手際よく行うことができ、描くことや色の混色を興味をもって行うことができた。</p> <p>○鑑賞をする際、鑑賞カードを簡単にした。いいところ探しを一品につき、二人にしたのが良かった。また思い思いの感想をつがやくことができた。</p>	<p>○作品のイメージや制作過程が分かるように具体的に提示する。</p> <p>○1学期においては、季節に合った学習を多く取り入れた。折り紙を使つての「このぼり」や「七夕飾り」などとても意欲的に取り組めた。紙の折り方や切り方がまだ上手にできない児童がいる。</p> <p>○絵の具にも、興味・関心ももてるよう児童の実態に合った内容を計画していく必要がある。</p> <p>○楽しんで作品作りができるが、今後自分が作品へ込めた思いを説明したり、友達の良いところを見付けたりする力もつけていきたい。お互いに鑑賞し合う力を育てたい。また自分で考えて作品作りに取り組んでいるつもりでも、近くの友達の作品に影響を受けてしまい、似通った作品になってしまうこともあるので、じっくり考えさせてから作成を行っていく。</p>	<p>○学習の導入では、完成図や制作過程図を示し、具体的に分かるように例を提示する。また、自由な発想や表現ができるように、デザイン画を宿題に出したり、考える時間を確保したりして児童間の意見の交流がもてるようにする。</p> <p>○折ったり、切ったりする基本的な技術は、季節の折り紙を取り入れて、繰り返し学ばせていく。</p> <p>○絵の具では、点描や太い線、中ぐらいの線、細い線などの練習させた結果、作品ができるような題材を工夫していく。また教科書や図鑑、友達からヒントを得たり、指導者側からの個別に具体的な声掛けをしたりすることで、最後まで集中して作品作りに取り組めるようにする。</p> <p>○学級全体で作りたいものを伝え合う活動を取り入れ、様々な発想ができるようにし自由な作品作りを促す。また鑑賞活動を通じて、相互評価や自分の作品に込めた思いを伝え合い、個々の自信につながるようにする。また良かった作品をタブレットで撮影するなどして、鑑賞カードに書く時間の確保を工夫していく。</p>
第2学年	<p>○導入では、仕上りの見本を見せることで想像させることができた。自分の思い描く完成図を一度イラストに描き、世界観をはっきりさせることで、どの児童も取り組みやすくなった。</p> <p>○活動の差が出る場合も想定しながら、進んでいる児童には進んでいる児童の様子を見せるなどして進捗をそろえることができるよう見直すことが必要である。</p> <p>○鑑賞の時間の時間をしっかりととることで、友達の作品の良いところや面白いと感じたところを、自分なりに具体的に文章に書くことができたが、個人差が大きい。</p>	<p>○素材を活用する（プラスチックの透明度を活用した作品作り）活動は、児童が試行錯誤する様子が見られた。作品を作って、影への色の出かたを確認し、更に工夫していくように、試行錯誤をする時間があることで、より児童の意欲的に活動に取り組んだ。</p> <p>○技術面（はさみの使い方、のりの貼り方、色の塗り方）は経験値の差が大きく、作業時間に大きく差が出てしまう。また、塗り込みや、細部まで色を付けることなどは、担任のサポートが必要と考える。2学期は、展覧会に向けて立体作品作りを行うため、技術面の差を考慮して学習を進める必要がある。</p> <p>○友達の作品を鑑賞することは大好きで意欲的に行う。しかし、鑑賞の視点や表現方法については、継続した指導が必要になる。</p>	<p>○仕上りの見本を見せるなど視覚的な資料を掲示してイメージを共有してから作業に取り組むようにする。自分の中での完成図を一度イラストにしたり、途中で他の児童の作品を紹介したりすることで、作業が進まない児童にとっての手掛かりとなり、作業を進めやすくなる。</p> <p>○活動の差が出ることを想定した活動時間を設定する。遅れている児童には、進んでいる児童の様子を見せ工夫していることに気付かせて、取り入れられる機会を作り進捗をそろえるように意識させる。</p> <p>○導入時や鑑賞活動の始めに、素材や表現方法のよさとはどのようなものがあるか考える時間を設定することで、鑑賞する上での視点をもたせる。また、同じ言葉での表現にならないように、具体的にどのような言葉を使っているのかをクラスで共有することで、表現方法を増やしていく。</p>
第3学年	<p>○意欲的で、テーマに即してイメージしたり、発想を広げたりして制作できる児童が多かった。一方で友達の真似や教科書の真似で作品作りが終わってしまう児童がいる。発想を形にしようとする造形的な見方・考え方が必要である。</p> <p>○テーマに関連した、写真を見たり、映像を見たりすることで、題材のテーマに即してイメージを広げる児童が増えた。さらに、テーマに向かいやすくなるためには、設計図を明確に書いてから本番に臨む必要がある。</p> <p>○鑑賞では、注目する視点を明確に示したため、友達同士で良いところを伝え合う活動が活発になった。</p>	<p>○題材のテーマに即して作品をイメージできない児童がいる。実際に触れさせたり、写真を見せたりしてイメージを広げ、学び合いによって課題を克服させる。</p> <p>○意欲的で、テーマから発想を広げて制作できる児童がいる一方で、友達の真似で終わってしまったり、決まったパターンでまとめようとしたりする児童がいる。発想を形にしようとする造形的な見方考え方を育てる。</p> <p>○丁寧に塗り込む、細かなハサミつかいなど、経験不足を補う指導、声掛けや課題である。</p> <p>○友達の作品を楽しく見合う鑑賞活動が行っているが、互いの良さを伝え合う活動が十分にできていない。</p>	<p>○テーマに関連した写真や映像資料などを使ってイメージが具体的にもてるような手立てを取る。児童が自分の課題を見付けられるように授業中に話し合いの機会を作る。また、テーマに向かいやすいうように、制作のルール設定をするなど題材内容を見直す。</p> <p>○導入では発想を広げる発問をしたり意見交換の時間を作ったりして、児童が造形的なアイデアをもてるように授業構成を改善する。</p> <p>○三鷹市小中一貫カリキュラムにあるように、体験を通して形や色の感じが分かるように指導する。</p> <p>○ワークシートの作り方を工夫し、鑑賞の視点を明確に示す。隣の人の作品の良いところを書き合うなど友達同士良さを伝え合えるように活動を工夫する。</p>
第4学年	<p>○提示される資料や作品をよく観察し、制作はかそうとする姿勢が身に付いている。しかし、提示されたものだけに発想が偏ってしまう傾向があるため、自由な発想や表現方法が試せる題材設定が必要である。</p> <p>○鑑賞の活動に対して苦手意識をもつ児童がいる。よさを付けられる視点や、意見を伝え合う面白さを鑑賞活動の中で伝えていく。</p> <p>○決められた時間の中で制作を行い、作品をよりよくしようとする姿勢が身に付いている。さらに、題材に対してそれぞれの課題意識をもたせ、習得状況に合わせて材料や技法を自ら選択できるようにしていく。</p>	<p>○新たに触れる材料や表現方法に興味をもち、すずんで活動に参加しようとする児童が多い。しかし、発展的な技法にまつまづきを感じる児童がいる。</p> <p>○テーマから発想を広げ、粘り強く制作を行うことができる児童がいる一方で、経験不足から作品作りへの興味を失ってしまう児童がいる。こだわりや自分なりのよさをもてるよう、思考力を育てる。</p> <p>○作品のよさを感じ取り、大切にしようとする児童がいる一方で、気に入らない作品や上手くいかなかった部分に興味を無くす児童がいる。技術や作品のよさを見付ける視点を身に付けさせる。</p> <p>○他者の作品を見合い、意見を伝え合う鑑賞活動を行う中で、作品作りの面白さや作品のよさを感じ取るようになる児童が多い。しかし、作品のよさを言語化することに苦手意識をもつ児童がいる。</p>	<p>○技術指導を視覚的な資料を掲示して行い、理解しやすく、見ながら作業できるようにする。</p> <p>○構想の場面でアイデアスケッチやワークシートへの記入を行わせ、自分の考えを絵や文章にまとめる活動を行う。</p> <p>○児童同士が互いに試したことや見付けたことを伝えられるようにするなど、活動の中での自然な鑑賞の場をつくる。また、机回巡視時に作品のよさを見付け、伝えていく。</p> <p>○導入時や鑑賞活動の始めに、素材や表現方法のよさとはどんなものがあるか考える時間を設定することで、鑑賞する上での視点をもたせる。</p>
第5学年	<p>○材料に興味をもち、意欲的な制作を行っている。しかし、制作を粘り強く行い、作品をよりよくしようとする児童は多くない。スムーズなステップの提示や、より発展的な技術指導を行っていく必要がある。</p> <p>○今まで経験したことのない技法やテーマを多く設定することで学習に対し、意欲的に取り組むことができた。</p> <p>○活動の切り替えと話を聞く姿勢に課題のある児童がいる。</p> <p>○鑑賞では、友達の良さを豊かにとらえようとする児童が多い。さらに、感じていることやそこから思いつくこと言葉にしたり作品に表したりする力を身に付けさせていく。</p>	<p>○慣れから材料や道具の扱いが確になってしまいう児童が少なくない。安全指導を徹底し、作業環境を整理整頓する意識をもたせる。</p> <p>○自分なりの工夫や判断で作品をよりよくしようとする児童がいる一方、つくりたいものや形が思い付かない児童や、ある程度で満足してしまい、制作を止めてしまいう児童がいる。材料や表現方法からよさを感じ取る視点を身に付けさせる。</p> <p>○素材や表現方法のよさを積極的に見付け、作品に生かそうとする児童が多い一方、発想の無さや技術的な行き詰まりから、表現に消極的な児童もわずかにいる。個別の支援が必要である。</p> <p>○他者の作品を鑑賞し、よさや面白さを伝え合うことができているが、文章としてまとめたり、発表の際に言語化することに課題がある。</p>	<p>○材料や道具の扱い方を視覚的な資料として提示する。また、導入時の指示によって、作業前の安全確認と机上の整理整頓を習慣付ける。</p> <p>○テーマに関連した写真や映像資料などを使ってイメージが具体的にもてるような手立てを取る。児童が自分の課題をもちながら制作を進められるように、発展的な技術指導を行っていく。</p> <p>○児童に適切な個別の目標を定めて取り組ませる。分かりやすめあてを示し、発想のつまずきが少なくなるように支援する。</p> <p>○形や色など鑑賞の視点を明確に示す。また、他者の作品のよさを伝え合う場面を製作途中にも設定し、作品のよさについて言語化する力を身に付けさせる。</p>
第6学年	<p>○題材のテーマや目標を把握し、制作に自分の経験や思いを生かそうとすることができる児童が増えた。さらに情報や資料を取捨選択し、自分の思いに合わせて制作に活用できるように指導を行っていく。</p> <p>○新たな技法や材料の興味をもち、制作を意欲的に進めようとする姿勢が身に付いている。さらに、制作中にそれぞれの課題意識をもたせ、制作段階に応じた制作意欲を感じさせていく。</p> <p>○制作に応じて身の回りを整理することが苦手な児童がいる。</p>	<p>○経験不足から、表現の幅を自ら狭めてしまいう児童がいる。経験した技法を活用し、自らの判断で表現方法を選択する力を身に付けさせる。</p> <p>○発想は思い付くが、どのように制作を進めれば作品として形にできるか、道筋を考えられない児童がいる。</p> <p>○今まで経験してきた表現方法に頼り、新しい表現方法に挑戦しようとする意欲をもてない児童がいる。色々な表現方法を体験させ、発想を形にできる方法を身に付けさせる。</p> <p>○鑑賞では他者の作品のよさを学級全体に発表する鑑賞活動を行い、積極的によさを共有し、伝え合おうとする児童がいた。一方で、仲の良い友達間での紹介に留まってしまう児童がいた。鑑賞の意義やよさを見付ける視点を身に付けさせる。</p>	<p>○色や形もつ印象や情緒について考える時間を作り、自分の表現にあった選択を積極的に行えるように働きかける。また、複数の表現方法を選択できるような題材の中で、新たな表現方法を体験させる。</p> <p>○制作の前に表現を試すことのできる場の設定を行う。また、構想の場面でアイデアスケッチやワークシートへの記入を行わせ、自分の考えを絵や文章にまとめ、計画をもって制作を行わせる。</p> <p>○様々な材料や表現方法を用いる題材を設定する。また、生活や他の教科に結び付けようとする題材を設定することで、表現への意欲をさらに高める。</p> <p>○めあてに向けてポイントを絞った作品鑑賞をさせる中で、鑑賞活動のめあてや意義を意識させる。その中で、自ら課題を見つめ、向上する力を育てる。</p>